

ひとりひとりひかる

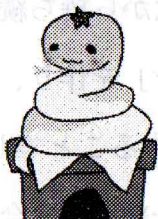
きぼう

2013 1/1
第71号

発行：かしの木の会/かしの木の里内 一宮市富田字砂原 2147 : kasisato@f7.dion.ne.jp

榎の木園 : kasien@k3.dion.ne.jp 榎の木作業所 : kasisyo@k2.dion.ne.jp

かしの木 ホームページ [http : www.h3.dion.ne.jp/~kst/](http://www.h3.dion.ne.jp/~kst/)



新春のお喜び 申し上げます

会員の皆様方には、輝かしい新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

かしの木の会も今年で33年の活動となります、これもひとえに会員、購読会員の皆様からのご支援とご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

今年も昨年と同様、引き続き、地域の方々、利用者に対して少しでも役に立つように頑張りたいと思っておりますので宜しくお願い申し上げます。

71号 きぼうの目次

表紙・写真・目次	P. 1
榎の木福祉会理事長年頭ご挨拶	P. 2
福祉情報コーナー/らちえっと	P. 3
地域コーナー①/フェスティバルを終えて	P. 4
地域コーナー②/木曾川高校・演奏会	P. 5
地域コーナー③/防災について	P. 6
かしの木の会コーナー①/イベント委員会	P. 7
かしの木の会コーナー②/広報・バザー委員会	P. 8
文芸コーナー	P. 9
お知らせコーナー/予定など	P. 10

施設コーナー

年頭のご挨拶

檜の木福祉会及びかしの木の会のみなさん、
新年明けましておめでとうございます。

わたくしは経営者の一員として、この年が
施設を利用されている方やそのご家族、そし
てここで働いていらっしゃる方々の誰にとつ
ても、これまで以上に幸せが実感できる年にな
るよう望んでいます。



さて、「一年の計は元旦にあり」と昔から申
します。歴史ある檜の木福祉会の経営組織も、
創立当初から今日の時代に即したものに十分
改善されていません。また、施設の拡充につ
いては、多額な借入金を伴う自己資金を工面
し、現在法人本部の隣に建設されています。
檜の木福祉会の将来を確実なものにしていく
には、経営体制（管理者等が計画運営する経

営会議など)を見直し、次世代の若い人た
ちが末代まで安定して経営できるものに改革
していくことが重要です。

そこで、外部の有識者や福祉に関心のある
方に、ボランティアとして新しく理事・評議
員・監事などをお願いし、一般社会で培われ
て来られました英知をいただきたいと考
えています。今後、利用者数が毎年10人ずつ
増えると仮定しますと、20年後には現在の
2倍の人数の利用者さんへの支援が必要に
なります。

わたくしの夢は、子供時代から持ち続けて
きた「コミュニティーサロン」を作り、そこ
を活用して地域福祉に貢献することでした。

「ふれあいサロン」はその一部です。今日か
らは、協働社会から共生社会へと発展させ、
誰もが幸せを感じられる檜の木福祉会づく
りの実現です。



社会福祉法人 檜の木福祉会

理事長 橋本 浩

福祉情報コーナー

「らちえっと」 活動スペース増築

「らちえっと」は、平成14年から重症心身障害児（者）通園事業B型として重い障害をお持ちの方々を対象に活動を行ってきました。そして昨年の4月より児童発達支援・生活介護事業として、障害者自立支援法と児童福祉法上の事業に移行しています。障害者自立支援基盤整備事業の補助金対象となり、昨年6月末から動き始め、今月の4月スタートに向けて増築工事を進めています。



当初4名から始まった「らちえっと」も現在では11名の利用者さんが通われています。そのため現在の活動スペースでは利用者さんが移動する際もパズルのように1人ずつ車いすをずらさないとすれ違うことさえできない状態です。また食事、トイレ、休憩、作業等すべての活動を1つの部屋で行っているため、とても十分な環境とは言えません。今後、養護学校を卒業される方や在宅で重い障害をお持ちの方のご希望に添えていくためにも、場所の確保が急務でした。今回、スペース増築の機会を頂けたので、このチャンスを最大限活かせるよう皆で作り上げていきたいと思っています。

増築にあたり、合わせて行おうとしているのが地域との交流です。「らちえっと」の活動スペースと共に喫茶店と地域交流の為

の広いスペースを用意します。ここで誰もが気軽に来て、のんびりと過ごす『居場所』づくりを進めたいと思います。立地上難しいという面もありますが、地域の方々のニーズを聴き、必要とされる空間を地域の方々と共に作り上げていきたいと思っています。

さて、地域との関わりとしては、ボランティアさんのご指導ご協力のもとジャンボかぼちゃの栽培に成功しました。素人の私たちに土づくりから教えていただき、夏場手入れを怠り雑草だらけにしてしまっても、ボランティアさんは温かく見守りアドバイスをくださいました。

そして、ハロウィンで親しまれているこのかぼちゃを富田保育園にプレゼントしました。この発案は「らちえっと」8年来のボランティア鈴木照さんからで、一緒に保育園へも行っていただきました。子どもたちは初めて見るジャンボかぼちゃに興味津々の様子でした。

後日、保育園の作品展に招待していただき、「らちえっと」の方々と遊びに行きました。保育園でハロウィンのイベントを行った際にジャンボかぼちゃでランタンを作られたとのことで、その時の様子等も見せていただきました。ご招待のお礼に「らちえっと」で栽培している原木しいたけを持っていきました。子どもたちは自分の背丈ほどある木にポコポコと生えているしいたけと、車いすに乗っているたくさんの利用者さんに驚いている様子でした。「らちえっと」の方々も最初は緊張の面持ちでしたがすぐに子どもたちに囲まれ少しでしたが初めてのふれ合いができました。

障がいを持つ人が地域で普通に暮らしていくには長い年月と深い関わりが必要です。これから少しずつではありますが、富田保育園さんはじめ地域との交流を「らちえっと」のゆったりとしたペースで焦らずゆっくりと行っていきたいと思っています。

らちえっと 橋口 幸

地域コーナー①

かしの木フェスティバルを終えて

10月14日(日)、「つなごうてとて ひろげよう みんなのわ」をテーマに「かしの木フェスティバル」を開催しました。当日は晴天に恵まれ多くの方にお越しいただきました。心から厚く御礼を申し上げます。

今年も檜の木福祉会や尾張地域の福祉事業所による模擬店や自主製品の販売がされました。販売には施設利用されている方が売り子となり、ブースでのパンやコーヒーの販売や枝豆やクッキーの出張販売を積極的にしていました。この販売を通し、利用者や障がい者の方が地域の方と交流ができたとともに、皆さんが持っている力についても感じて頂けたと思います。

フリーマーケットについても多くの方に参加いただけました。その中のお一人は受付開始時間よりも早くみえ、「楽しみにしていて、ほとんど眠れなかった。」と話して下さり、熱い思いを大変うれしく思いました。

イベントについては大きく分け、ステージイベントとスタンプラリーとボールプールを設置することができました。

ステージイベントではバトントワリングやよさこい、吹奏楽や大道芸によるパフォーマンス、バンドやかしの木の「どれみ」によるステージなど盛りだくさんの内容を行うことができました。どのステージも観客席は満席状態でした。よさこいや大道芸、「どれみ」については観客参加の内容もあったので、一緒に踊ったり歌う事ができ大変盛り上がりました。

スタンプラリーについては車椅子体験や白杖体験、尾張地域のクイズを巡る内容で行いました。こちらも多くの方が参加されました。中でも白杖体験では体験者がアイマス

クをつけ白杖を持ち、ボランティアの方が鈴を鳴らして誘導するものですが、ボランティアの学生さんが一生懸命鈴を鳴らしながら誘導しているのが強く印象として残りました。

ボールプールでは多くのお子さんがはしゃいで遊んでおり、設置してよかったと思いました。

フェスティバルでは、この街とともに歩み、育ち、誰もが安心して暮らしていけるよう、ちょっとした思いやり(和)が、人と人とのふれあい(輪)につながり、さらに地域へ(環)と広がっていくことを願いとしています。このフェスティバルを通じて、日頃より檜の木福祉会に協力していただいている方やイベントの各種団体の方、フェスティバル運営を支えてくださったボランティアの方や、かしの木の会の会員の方、会場に足を運んでいただいた地域の方が参加いただき一体となって楽しめたことで、その願いに近付けたのではないかと感じております。

来年も「かしの木フェスティバル」を、障がいの有る無しに関わらず、笑顔溢れる地域のお祭りとして開催していきたいと思っております。

最後に「かしの木フェスティバル」を支えて下さいました皆様に感謝するとともに、御礼申し上げます。

かしの木フェスティバル実行委員長 大川



第12回かしの木フェスティバルありがとう

第12回かしの木フェスティバル(10月14日開催)に、ご支援ご協力ありがとうございました。

☆第12回かしの木フェスティバルのご協力者数

- 協賛協力業者 24件
- ボランティア協力者 77名
- バザー等出店施設・団体 14軒
- 当日来場者 約1,300名



☆第12回かしの木フェスティバル収支報告 (H24.12.03 現在)

支 出

- 事業費 599,681円
- 模擬店材料費 94,350円
- バザー材料費等 604,201円
- 次期繰越金 269,213円

収 入

- 協賛金収入 188,000円 (24件)
- 協力金収入 500,000円 (10件)
- 模擬店収入 199,200円 (5件)
- バザー収入 604,201円 (他施設除く)
- その他の収入 76,044円 (来賓ご祝儀等)

支出の合計 1,567,445円 収入の合計 1,567,445円

なお、次期繰越金は、かしの木の将来必要な事業資金として積み立てさせていただきます。

地域コーナー②

平成24年9月29日(土)に木曾川高校の体育館で「きそがわ音楽会」が開かれました。

木曾川高校のプラスバンド部が檜の木の利用者さんたちを招待してのコンサートで、今年で10回目になります。

顧問の春日先生は、「木曾川高校のプラスバンド部にとって最も大切にしているコンサートの一つ」とおっしゃっています。

毎年、利用者さんからのアンケートを元にかしの木の皆さんに喜ばれるものにしようと、楽しみながら練習をされているそうです。

毎年行なわれているため、利用者さんもとても楽しみにされています。演奏会が始まると、初めはみなさん緊張され表情も固いですが、知っている音楽が流れると笑みが浮かび、一人また一人とステージに集まり、音楽に合わせて個々様々な踊りをしました。中には、木曾川高校の生徒さん達と一緒に歌を歌う姿もみうけられました。

私は、木曾川高校演奏会に参加して5年目になりますが、今年は、去年より多くの利用者さんがステージに集まり、楽しまれていたように感じました。また、今年は「AKB48」「愛は勝つ」「マルマルモリモリ」など利用者さんのリクエスト曲が多く盛り込まれていました。

音楽の力は、利用者さん一人一人に笑みを与えてくれる魔法の様に感じます。



今後も、音楽会をとおして木曾川高校の方々と交流をもてたいと思います。

かしの木の里 原 美苗



地域コーナー③

障がいのある人の防災対策について

2011年3月11日に、戦後もっとも甚大な自然災害をもたらした東日本大震災があり、多くの方々が亡くなられ、未だ多くの方々が避難所生活を強いられているのが現状です。今回の震災は、想定をはるかに超えていたものと言われましたが、今回の震災から改めて「自分達でできる防災準備を」「災害弱者であるからこそ、防災により一層関心を持つ」ことが重要であることを実感させられたと思います。その為今回は、「障がいのある人の防災対策」として、日々の業務の中で感じていることを整理し、まとめてさせていただきます。

東日本大震災が発生してしばらく後の新聞に、「避難所で馴染めずに、車で暮している障害児がいる」という記事が掲載されました。このようなことは新潟中越地震の際にも起きていて、改めて障がいのある人の避難場所での生活の問題が浮き彫りになりました。「物資」などは自分達で最低限の準備ができるでしょうが、場所に関してはかなり厳しく、ましてや「地域の理解」「支援者の確保」となると自分で準備することには限界があります。その為「障がいのある人の防災対策」として、以下の留意点をあげさせていただきます。

- ① 被災した我が家(自分)は何に困るか？
まずは御家族、単身者は相談できる人と「防災について話し合い」ましょう。
- ② 家族のニーズを踏まえ、基本的な防災をしましょう。これは一般家族と同じ内容なので、積極的に勉強し準備をしましょう。
- ③ こだわりの遊び道具、お気に入りの食器や寝具、サイズが特殊な服など「特別な

物」も、防災用品の中に入れておきましょう。

- ④ 変化に弱い人は時々避難訓練として、いつもと違う場所での食事や就寝の練習をするとよい。テントや寝袋で寝る練習などもよいと思います。
- ⑤ 自分から正確にやり取りができない人は、支援ツールを携帯しましょう。「手話で話す」ことを相手に示すものなど、筆記用具、自分から伝えられない子は、防災カードなど本人情報がわかるものを身につけるとよいでしょう。
- ⑥ 学校や事業所などの防災対策が記述された用紙は、すぐに見られる場所に掲示しておくといよいでしょう。
- ⑦ 養護学校や福祉事業所は、いざという時に力になってくれる人がたくさんいますので、繋がりを大切に理解者を増やしていくといよいでしょう。

今回は「障がいのある人の防災対策について」というテーマで、とりわけ「当事者の方々が備えるといよい点」という視点でまとめさせていただきました。市町村によっては「障がいのある方の防災対策」を広報やHPにアナウンスされている自治体もあるようですので、これを機にいい機会に隅から隅まで覗いていただけたらと思います。

療育サポートプラザ チャイブ 鷲尾廉仁



かしの木の会コーナー①

イベント委員会

イベント委員会は、毎月第2木曜日に定例会を行っています。

榿の木福祉会のイベント行事「かしの木フェスティバル」に参加・協力し、学生・一般ボランティアさんと共に活動しています。



フェスティバルが終わった後の10月から11月には、各地域での催し・イベントに参加して活動しています。その後からは、2月にあるかしの木音楽会に向けての企画運営に取りかかります。

- 「かしの木の会・イベント委員会」には多数の方が登録されていますが、年々ご都合にて定例会への出席者数も激減して、いつも4~5名にて会議を行っています。そこで3名程で尾西ボランティア連絡会に登録・所属し、会議や地域のイベント委員会行事に参加して他のボランティアの皆さんと交流を深め、かしの木のイベント行事にもご協力いただけるように積極的に願っています。

今回は、数ある地域行事の中から11月4日に行われた「福祉のつどい」を紹介します。

この福祉のつどいは、もともと社会福祉協議会が主催して行われていましたが、現在は尾西ボランティア連絡会の主催にて行われています。尾西図書館西側にある商工会館の1~3階でいろいろな催しが行われ、3階ステージでは榿の木の職員さんに歌手として生バンド演奏で出演していただきました。また、周りの駐車場でもいろいろな模擬店あり、スタンプラリーありでお子さんから年配の方までおおいに楽しめました。榿の木の花苗や綿菓子・ポップコーン等の販売もありました。この様な行事も榿の木施設長さん達に支えられ、前々日からテント運搬・テント張り、また終了後の片づけまでお手伝いいただきありがとうございました。



会員の皆さんも是非こうした地域のイベントにも参加して、楽しんでいただければと思います。

イベント 高松

かしの木の会コーナー②

バザー委員会活動報告

広報委員会活動報告

広報委員会は、広報紙「きぼう」の発行を3か月に1回のペースで行っています。

編集・発行作業のかたわら、内容をより充実させ、かつ作業を効率的に進めるために常に検討を重ねていますが、今年度は、おもに以下の点について改善を行いました。

①作業手順のマニュアル作り

一連の作業を文書化することにより、メンバー全員が手順や注意点を理解でき、作業が円滑になりました。

②紙面の改善

パソコンから直接印刷機にデータを送ることにより、特に写真入りの記事の印刷が鮮明になりました。手順を1つ省いたため、作業の効率化にもつながりました。

③会費納入の促進

昨年度に引き続き、活動会員の未納者を中心に会費納入を働きかけていますが、なかなか進まないのが現状です。

現状の最大の課題は③の会費納入の促進です。特に、この数年第3種郵便の審査が厳しく、会費納入者数が規定を満たさないと認可を取り消されて、これまでの郵送料では「きぼう」の発行ができなくなる恐れがあります。

引き続き働きかけを行うと共に、会費納入者数の獲得のため、新たな購読会員募集を行っています。「きぼう」の発行継続のため、皆さんも是非ご協力ください。

広報 浅野（裕）

月二回の手芸製作会、年13回（延べ16日）の各種バザーへの出店、夏と冬の物資販売が主な活動です。

手芸製作会は地域の無償ボランティアさんにも毎回参加いただき、一針一針心を込めた品を手作りしています。

バザーの出店に際しましては、売り場担当の方には朝早くから一日仕事をお願いして申し訳ないのですが、リピーターでいらっしゃる方も多く、「去年購入して良かったから、また来たわ」と、おっしゃっていただくこともしばしばで手作り冥利に尽きます。温かく私たち「かしの木の会」を支えてくださっている地域の皆様に本当に感謝です。

今後も皆様に愛される商品を出来る限り作り続けますので今後ともよろしくお願ひします。

物資販売につきましては、品数が限られているため、皆様にはご不便をおかけしており、申し訳ございませんが、注文数の減少とともに種類が発注元から減らされてしまうという悪循環を生んでいます。どうかご了承いただき、少しでも多くご協力をお願いします。

バザー手作り品売り上げ

かしの木ふれあいバザー	26,640円
かしの木フェスティバル	28,950円
一宮福祉とボランティア活動店	58,350円
尾西まつり	76,400円
稲沢福祉まつり	30,800円
老人ホーム一宮苑	38,900円
福祉のつどい	26,500円

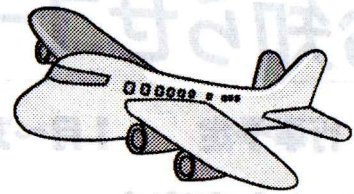
バザー不用品売り上げ

かしの木盆踊り	30,930円
かしの木フェスティバル	56,880円

夏季物資販売売り上げ	178,233円
------------	----------

バザー 青山

文芸コーナー



しあわせのある国を訪ねて 1

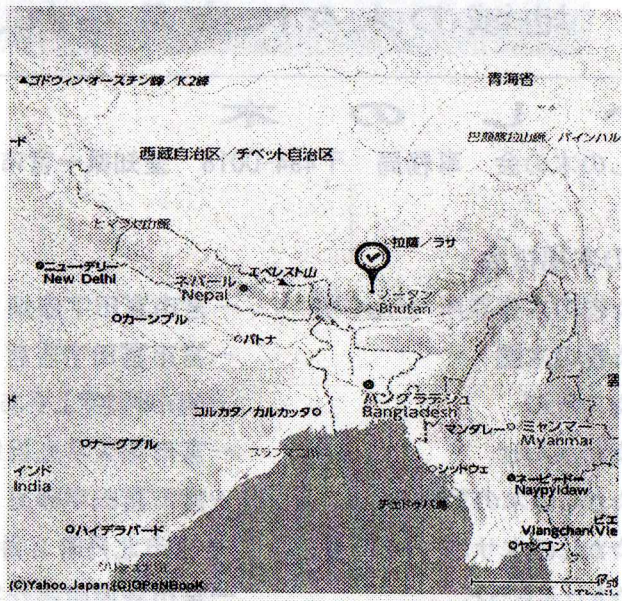
平成24年の4月、ひよんなことで、世界中で国民全体が自分たちは幸福であると信じて暮らしているブータン王国を訪れた。



※国王さまとお妃さま来日のショット

これは、2月の最後の土曜日の午後3時頃、7年ほど前から毎年わたくしの店にぼたんの苗木を30本ほどご注文されている方の話で、すぐに出かける計画ができた。

その苗を持って行かれる方は、県立一宮高等学校の同級生で、ブータンの国立図書館新設に10年間にわたって顧問として携わられたことで、王族や政府役員との太いパイプができ、日本からの手土産として空港の検疫もなく国王の家族に届けられていたことを知った。着いた空港は、海拔2400mの高さにあり、国土は九州の90%と狭く、人口は約70万人で、気候は長野県に近い国です。

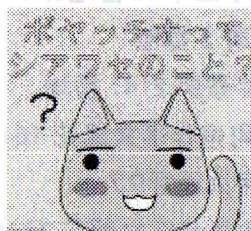
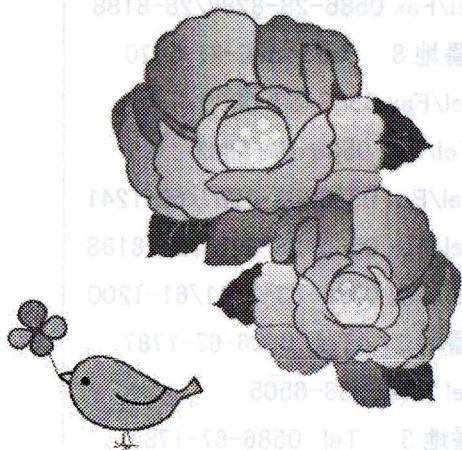


※ブータンの位置って分かりますか？

※幸せな人々の様子は、次号にします。

社会福祉法人 檜の木福祉会

理事長 橋本 浩



お知らせコーナー

【行事予定 1月~3月】

かしの木音楽会

開催日・・・2月11日(祝)

時間・・・開場・12:30~

開演・13:30~

場所・・・尾西グリーンプラザ

☆ ボランティアさん募集

毎月のレクレーション等の行事と一緒に
楽しみたい方！作業と一緒に手伝って
くださる方！何でも結構です。まずは、
ご連絡ください

自主製品 販売中

榎の木園 コーヒー出張販売、
水切りネットなどの販売
喫茶 ふらっと

榎の木作業所(どんぐり)

クッキー、パン、駄菓子
ごみ袋、お花などの販売

かしの木の里

ビーズ、革、とんぼ玉、
陶芸、5本指靴下、手芸、
押し花、木工、石鹸など

お近くにお越しの際は、
是非、お立ち寄りご覧ください。

地域の人々に支えられ、地域の人々と共に

かしの木

かしの木の会 事務局 〒494-0018 愛知県一宮市富田字砂原 2147 番地 Tel 0586-63-2111

かしの木の里内 Fax 0586-61-1200

榎の木福祉会

- | | | |
|----------------|------------------------|------------------------------|
| ☆榎の木作業所・どんぐり | 一宮市富田字漆畑 16 番地 | Tel/Fax0586-61-6055/61-6514 |
| ☆榎の木園 | 一宮市富田字若宮 17 番地 | Tel/Fax 0586-62-8202/62-8253 |
| ☆ステップ | 一宮市明地字上平 35 番地の 1 | Tel/Fax 0586-68-1207/68-1241 |
| ☆わがんせ | 一宮市祐久字九百坪 204 | Tel/Fax0586-68-2700/68-1250 |
| ☆かしの木の里 | 一宮市富田字砂原 2147 番地 | Tel/Fax 0586-63-2111/61-1200 |
| ☆かしの木サポートプラザ | 一宮市北丹町 2 番地 | Tel/Fax 0586-28-8288/28-8188 |
| ☆カフェふらっと | 一宮市萩原町串作字女郎花 1617 番地 8 | Tel 0586-67-5070 |
| ☆園芸センターさいた | 一宮市西五城字山方 21-1 | Tel/Fax 0586-62-0039 |
| ☆相談支援ゆんたく | 一宮市北丹町 2 番地 | Tel/Fax 0586-64-5882 |
| ☆就業・生活支援する一歩 | 一宮市明地字上平 35 番地の 1 | Tel/Fax 0586-68-1207/68-1241 |
| ☆療育サポートプラザチャイブ | 一宮市北丹町 2 番地 | Tel/Fax 0586-28-8288/28-8188 |
| ☆居宅介護事業所きーぶ | 一宮市富田字砂原 2147 番地 | Tel/Fax 0586-63-2111/61-1200 |
| ☆G. H. C はぎわら | 一宮市萩原町串作字女郎花 1616 番地 3 | Tel 0586-67-1787 |
| ☆G. H. C びさい | 一宮市祐久字九百坪 97 | Tel 0586-68-6505 |
| ☆G. H. C やまと | 一宮市萩原町串作字女郎花 1616 番地 3 | Tel 0586-67-1787 |